

平成24年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	オーストラリア科学奨学生への派遣		担当部局	初等中等教育局		作成責任者	国際教育課長 中井 一浩	
事業開始・終了(予定)年度	昭和43年度～		担当課室	国際教育課				
会計区分	一般会計		施策名	XIV-1 国際交流の推進				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—		関係する計画、通知等	教育振興基本計画(平成20年7月1日閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国際化が著しく進展しているため、高校生段階における国際交流を通じて、広い視野を持って異文化を理解し、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく態度を育成する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	ノーベル賞クラスの一線級の科学者から最新の科学知識に関する講義を受け、他国からの参加高校生との交流を深めることを目的とした、シドニー大学内物理学財団が主催する「高校生のための国際科学学校」事業の派遣高校生(オーストラリア科学奨学生)を文部科学省が決定し、当該派遣に要する旅費を支給する。(隔年実施)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		補正予算	1.5	—	1.5	—	1.3	
		繰越し等	0	—	0	—		
		計	0	—	0	—		
	執行額	1.5	—	1.5	—	1.3		
	執行率(%)	0.9	60.0%	—	100%	—		
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21・22年度	23年度	目標値 (年度)
	ハリーマッセル国際科学学校へのオーストラリア科学奨学生の派遣数		成果実績	人	3,190	—	—	向上していること
			達成度	%	維持	—	—	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	国の派遣経費の一部支援を受けて、派遣された奨学生数		活動実績 (当初見込み)	人	8	()	10 (10)	向上していること ()
単位当たり コスト	129,470 (円/人)		算出根拠	1,294,700円(生徒)/10人 (参考 引率1名別:16,8150円)				
平成24・25年度 予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	教員等派遣旅費	—	1.3百万円	※隔年度実施のため				
	計	—	1.3百万円					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	国際化が著しく進展する現代においては、広い視野を持って異文化を理解し、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく態度の育成が必要であり、高校生交流の推進のため、国が事業を行う必要がある。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	ノーベル賞クラスの一線級の科学者から最新の科学知識に関する講義を受け、他国からの参加の高校生との交流を深めることを目的とした「高校生のための国際科学学校」事業への派遣高校生を文科省が決定し、当該派遣に要する経費(旅費)であり、真に必要なものに限定している。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	文部科学省が直接派遣する高校生を決定し、当該派遣に要する経費(旅費)を支給する本事業は、国際化が著しく進展する現代において、広い視野を持って異文化を理解し、これらを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく態度の育成するため、直接実施しており、実効性の高い事業となっている。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名	
—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	本事業は、隔年度実施のため、平成24年度は実施しない。平成9年度から平成23年度までは10名ずつ(平成19、21年度は8名)の高校生を派遣してきた。今後に限られた予算の範囲内で、最大限の効果が発揮できるよう課題となっているが、今まで以上の適正な事業実施に努める。		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点:この事業は、シドニー大学内物理学財団が主催する「高校生のための国際科学学校」事業の派遣高校生(オーストラリア科学奨学生)を文部科学省が決定し、当該派遣に要する旅費を支給する事業であり、予算執行状況の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見:この事業は前々回(21年度決算)に不用額が生じていたが、前回(23年度決算)では改善されている。引き続き効率的な予算執行に努めつつ、予算積算を再検証するなどコスト削減に努めるべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	本事業においては、平成25年度以降も効率的な予算執行に努めることとし、平成25年度概算要求では、旅費の積算単価を見直すことにより▲0.146百万円を縮減した。		
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
・教育振興基本計画(平成20年7月1日閣議決定) http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/080701/002.pdf			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー		平成23年行政事業レビュー	0020

※平成23年度実績を記入

文部科学省
1.5百万円

教員等派遣旅費:1.5百万円

※シドニー大学内物理学財団が主催する「高校生のための国際科学学校」事業への派遣高校生を選考・決定し、派遣を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0